

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099300016
法人名	社会福祉法人 友あい会
事業所名	グループホーム みかんの木
所在地	福岡県田川郡添田町大字添田1911番2
自己評価作成日	平成25年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月15日	評価結果確定日	平成25年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々とのふれあいを大事にし、地域の行事に参加したり、地域の方を招待したりして交流を深めている。又、入居者様のできるさまざまな家事を手伝っていただきながら、生きがい・やりがいのある暮らしを職員と一緒にいただき笑顔の絶えない施設サービスを提供している。家族の方との対話や運営推進会議で得られた意見・要望・提案・情報提供などをともに施設運営に役立っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年のクリスマス会には、地域の子供たちを招待し、賑やかに開催されている。これをきっかけとして、地域の餅つきにも招待され、新たな交流も生まれている。また、運営推進会議の中での提案を受け、家族会が発足しており、この3月に初開催されている。今後は、家族同士の会合の機会を持つことも視野に入れており、開かれた事業所としての働きかけを行っているところである。1ユニットの特長を活かし、個々の尊重や日々の心身状況の変化に向き合い、喜怒哀楽を表現できる関係性は、記録様式や介護計画の内容からもうかがえる。時には入居されている方同士で見守り合い、時には職員へ気づきを促す場面もあり、管理者、職員は、程よい距離感での見守りを行い、自然体での関わりが印象に残る。母体法人は、障がい者授産施設やグループホーム運営、就労支援等の福祉事業や、通所介護等の介護サービス事業に取り組み、専門職の連携や事業所間の交流等、サービス向上に向けた連携を図っている。開設2年目を迎えようとしている中、今後の地域の中での存在の高まりが大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ミーティングにおいて理念について勉強し、スタッフ間で共有している。玄関に理念を掲げいつでも確認できるようにして実践に繋がれるようにしている。	法人理念のもと、独自の介護理念や運営方針を作成し、玄関に掲示している。内部研修の中でも取り上げ、共有や浸透を図り、実践に結びつけるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させて頂いたりして交流をしている。散歩の際人の通りが少なく地域の方との接触は少ないが出会った際はあいさつを交わすなどで交流している	開設して間もない中、利用者本位の地域交流を念頭に置いており、日常の中での何気ない交流を重ねている。クリスマス会には地域の子供たちを中心とする20数名の参加を得ており、また、地域の餅つきに招待されるきっかけとなっている。	法人内での交流の機会もあり、民生委員との連携により法人全体で啓発活動に取り組んでいる経緯もある。今後も交流や連携を積み重ねながら、事業所独自の地域拠点としての活動展開も大いに期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の際に事業所の紹介などで認知症について簡単に説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスについての話し合いが行われ、助言や提案を頂き、取り組みに反映している	運営推進会議には、利用者、家族、区長、町役場担当者、地域包括支援センター職員、法人代表、職員等の出席を得て、現在、定期開催されている。家族は持ち回りで参加し、参加メンバーとともに情報共有や意見交換を行っている。議事録から、忌憚のない意見交換が行われていることが確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の職員に運営推進会議に参加して頂き助言など頂いている。何かあればその都度連絡を取るようにしている。	運営推進会議には、町役場担当者、及び地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、直接出向いたり、電話連絡等を通じて、情報共有やアドバイスを受けている。運営推進会議の中での提案をもとに、家族会の発足にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今のところ身体拘束が必要なケースはなく代替で対応できている。今後の話し合い、研修でさらに理解を深めていく。	身体拘束排除宣言を掲げている。日中、玄関の施錠も行われておらず、個人の理解に努め、寄り添う支援を実践している。また、利用者同士での見守りもあり、時には職員も指導を頂いている。個人の理解や、行動の理由や背景の把握に努め、ケアのあり方について検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的にも言動にも虐待は行われていない。虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている		

福岡県 グループホーム みかんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいない。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、玄関には資料を準備し、情報提供を行えるようにしている。今後は、関係機関や行政との連携により、家族や地域に向けたより積極的な情報発信にも期待します。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をおこなって納得、理解していただけるようにしている。疑問や質問がないか確認し署名をもらっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には常に話しかけ意見を言ってもらえるよう努めている。利用者とは常に対話し意見や要望を聞いて、それに添えるよう努めている	運営推進会議での提案を得て家族会発足に取り組み、この3月に初の会合の機会を持っている。今後は半年毎の開催を予定し、家族の主体的な運営も視野に入れている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングにおいて話を聞く機会を設けている	全員参加を基本とするミーティングを開催し、意見や提案を収集する機会を設けている。自己評価票を職員全員に配布し、外部評価の理解と意見の収集に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の状況を把握し向上心を持って働けるように、職場環境、条件の整備について個々の職員と対話の機会を持っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して性別や年齢の制限はない。職員についても自己実現できるようにしている	ヘルパー2級以上とする資格要件は設けているが、採用にあたり、年齢や性別による排除は行っていない。現在、30代から60代の職員が勤務している。休憩室を確保し、園芸等、職員の得意分野で能力を發揮してもらっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議、申し送りにおいて利用者の人権について話し合っている。	新規採用時には、理念や人権尊重に重きをおいた指導を行っている。また、認知症ケアや理念に関する研修実施を通じて、職員の意識を高めるよう取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム みかんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングや勉強会への参加、内、外部研修に参加してもらいスキルアップできるよう支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の必要性を認識しているがまだ取り組めていない。グループホーム協会への参加や他施設との交流の機会を調整中である		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問させていただいたり、施設見学や体験入居をしてもらい、不安や要望の内容を聞き取りしながら丁寧に頂けるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問させていただいたり、施設見学にこられた際に話を聴く機会を設け、関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者ケアマネ職員ともよく話しをして必要な支援は何かを考え対応できるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に食事、掃除、レク等をして、利用者の利用者の持っている力を発揮できるよう努めている。納得できていない利用者にはよく意味を説明している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を声かけしている。定期的受診や薬取りなどをお願いし定期的に足を運んでもらっている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会にこられる機会も多く、馴染みの関係が維持できるように支援している	家族や親戚、友人等の方が来訪する機会も多く、ともに歓迎している。自宅の様子を見にドライブに出かけたり、入居前に利用していた事業所を訪ねることもある。今後のアセスメントの充実から新たなアプローチが期待できる。	

福岡県 グループホーム みかんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者一人ひとりの関係を把握し、席の位置等に配慮し、交流しやすい空間と楽しく家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた後もケアマネと連絡を取っている。相談や支援に努めている。現在は在宅でうまくいっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族に要望を聞き希望、意向に沿った支援に努めている。	申し送り帳や個人記録の内容から、細やかな観察と対応がうかがえる。日常の会話や、来訪する機会の多い家族や友人からの情報も参考にし、思いや意向の把握に努めている。同法人の看護師より記録方法についてのアドバイスを受けながら、視点を統一し、主観的情報等についても職員間で共有している。	日々の記録は、日常の様子がわかりやすく記載されており、職員間の共有や検討を通じて、個別の思いや意向の把握に努めている。今後はセンター方式の導入を予定しており、職員の積極的なかわりと、認知症ケアへの新たなアプローチが期待できます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や入居者との日常の会話等から今までの暮らしを把握できるようにしている。入居時に収集できなかった細かな情報も把握できるよう家族との会話には注意している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況から把握するように努めミーティングや申し送りで話し合っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、現状でできる事など家族の意見も反映し、その人らしい生活が送れるよう、職員間で意見やアイデアを出し合い長期目標、短期目標を設定し介護計画を作成している	家族や看護師が参加する担当者会議を開催している。必要な支援を盛り込み、家族の役割等も具体的に示されており、個別性ある介護計画となっている。毎月のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状確認と見直しの必要性を検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記録し、全職員が共有しているとともに気づいた事や工夫などは申し送りノートで情報の共有ができるようにしている。		

福岡県 グループホーム みかんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じた支援をするよう努め、既存のサービスに捉われないように取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長さんをはじめ地域の方や役場職員、地域の消防団の方などの協力のもと地域でのイベントや町の資源を活用し利用者が安心して暮らして生活できるよう取り組み支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院受診を行い、適切な医療を受けられるよう支援している	これまでのかかりつけ医との関係を尊重し、家族との連携を活かしながら支援を行っている。また、必要時や家族状況等に合わせ受診に同行し、情報共有に努めている。法人内の専門職との連携も可能であり、医療的ケアに関する記録も充実している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師と連携し、情報を共有して個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう共同している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に情報交換を行っている。病院での面会の際に利用者の状態を確認している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け本人、家族との話し合いを持ち、施設としてできることを話し合いながら、方針の共有ができるように支援していきたい。	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた、事業所の方針や、出来ること、出来ないことを説明し、納得してもらっている。状態の変化に伴い、関係者での話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、緊急連絡網を整備している。利用者の急変や事故発生時に備え、消防署の講習を受講するよう計画している。		

福岡県 グループホーム みかんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間及び日中の消火、通報、避難訓練を年2回行っている。地元消防団に視察に来ていただき避難経路、利用者の状態など確認して頂き緊急時の協力を要請している	スプリンクラーが設置されている。消防署への立会いを要請し、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。布団を用いたシミュレーションや水消火器による訓練も行われている。地域消防団による視察も実施され、緊急時の連携を確認している。今後も、運営推進会議等を通じて、地域との連携を充実させていく意向である。全職員の救急救命講習の受講を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を傷つける事のないよう言葉使い、接遇には注意し支援している。自己決定しやすい声かけに配慮している。	内部研修やOJTの実施を通じて、人格の尊重やプライバシーの確保に向けた意識を高めている。排泄ケアや入浴時の対応については特に留意し、自尊心や羞恥心への配慮を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望が表せる声かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムを崩さないよう配慮しながら、一人一人のペースに合わせた支援を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望に合わせた支援を行い、できないところは職員が手伝っている。白髪染めやカットを行い、必要に応じて隣の美容室へ行く支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けを行っている。個々の能力に合わせそれぞれが自分の役割を持っている。一緒に食事を楽しんでいる。	炊飯はホームで行い、主菜等は法人の給食センターより提供される。旬の食材を用い、メニューの選択や嗜好の反映も可能である。つぎわけや後片付けをともにを行い、時には手作りのおやつ作りを行い、「食」のプロセスを楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、利用者一人一人の状態を把握し、食事量の少ない方は栄養補助食品を提供したり、水分摂取の少ない方はゼリーにして提供したりして工夫している		

福岡県 グループホーム みかんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。個々に合わせ声かけや介助を行い、磨き残しのチェックを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の動きや表情、排泄リズムを把握し排泄の自立支援に努めている。自尊心を傷つけないよう配慮した声かけに努めている。	現状として、自立されている方も多い。個別の状況や排泄パターンの把握に努め、プライドや羞恥心への配慮に努めながら、さりげない対応を心掛けている。乳製品の摂取や腹部マッサージ、適度な運動を行い、また、トイレでは排便に適した姿勢を提供する等、便秘予防に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方には、ヨーグルトを提供し、歩行訓練など適度な運動を促し、排便ないときには腹部マッサージをしたりかかりつけ医に薬などの相談をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴スケジュールはあるが、一人一人の体調や気分に合わせて支援を行っている。清潔の保持や皮膚の状態の観察に注意している。	週3回の基本的な入浴スケジュールは設定されているが、希望や状況、体調等を鑑み、柔軟な対応に努めている。また、皮膚の状態にあわせ、日々の足浴を継続している方もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状態の把握に努め、安眠を阻害する要因の排除を心掛けている。例えば痒みの軽減の為に軟膏塗布や不安の解消のための対話等		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し服薬チェック行うとともに、個別ファイル、申し送りノートにて薬の目的や副作用、用量、用法を共有している。また、変化を観察、記録し受診時に役立てている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴に注目しその方の得意とする分野の作業に協力をお願いし、ともに生活しやりがいがあるように支援している。		

福岡県 グループホーム みかんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事への参加や散歩等を含め戸外への外出支援を行っている。花の手入れや水やり、ドライブなど目的を用意し戸外への外出を促している。	周辺の散歩には個別に出かけている。庭先のプランターの花の手入れや水遣りも役割として担っていただいている。敷地内には畑作りのためのスペースも確保されており、今後の活用を模索している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設がお金の管理を行っている。本人の希望にあわせて支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、施設の電話は使用可能としている。携帯電話を使用している利用者もいて自由に電話されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、季節に応じた飾り付けを行ったり行事の写真を貼るなど、居心地のいい空間作りを心掛けている。	開放的な共用空間には、利用者の方よりアドバイスも受けながら、各所で花が育てられている。畳スペースやソファの設置等、その時々に応じたくつろぎの場所も確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のソファや和室ソファなど思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは備品だが他は本人の使い慣れた家具を持ち込まれ思い思いの住まいとなっている。	使い慣れた筆筒やテレビ、ソファが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。思い出の品や大切な物が飾られている居室もあり、これまでの人生史がうかがえる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口に分かりやすく大きな表札をつけてわかりやすいようにして、一人ひとりのプライベート空間も保たれている。家具の配置など考慮し安全に自立した生活ができるようにしている。		